

【派遣者近況報告】

タイトル: イタリアにおける各種リトリートへの参加
派遣者: 新谷 紀人 (大阪大学大学院薬学研究科)
派遣先: パドヴァ大学生物学部門(イタリア)
報告日: 2015年3月7日



各リトリートの
要旨集の表紙。
左, DTI
中央, VIMM
右, Padua大学
生物学部門

頭脳循環プログラムが始まってから丁度5カ月が過ぎました。イタリアへの到着が9月22日であったことから、この5カ月間は、入国/滞在の手続き(イタリアはこのあたりが少し煩雑です)と、日本で得たデータの再現性確認をすると共に、イタリアでこの研究をどのように展開できるのか、他の研究者等のディスカッションを含めた情報収集をメインとしました。

そしてその情報収集に最適だったのが各種のリトリートです。私が派遣されているパドヴァ大学のScorrano研は、ダルベッコテレソン研究所(DTI)やベネチア分子医学研究所(VIMM)と密接に連携をしており、これら研究所の研究者と、お互いのデータの協議をしあう機会が頻繁にありました。イタリア到着後のベネチアでの開催のほか、ナポリ(DTI)、トレビソ(VIMM)、パドヴァ(Padua大)でも開催され、トレビソでは発表もさせていただきました。

これらで発表された、ミトコンドリアを中心とした種々の細胞内小器官あるいは細胞シグナル伝達の視点から為された様々な生理病態研究はいずれも世界トップクラスであり、自身の研究テーマを展開する際に協力をお願いすべき研究者/ラボの把握や、展開をする上で重要となる多角的視点の獲得という意味において、いずれも有用な会であったと感謝しています。